

中南米とカリブ地域の航空業界団体 ALTA に加入

三菱航空機は、中南米とカリブ地域の航空業界団体 ALTA（Latin American and Caribbean Air Transport Association）に加入した。開発中の次世代リージョナルジェット機 MRJ（Mitsubishi Regional Jet）の航空業界における事業促進の一環としてこの団体への加入が有益だと判断。ALTA は非営利団体で、中南米とカリブ地域の 90 パーセント以上の民間航空輸送はこの組織に加入する航空会社が供給している。三菱航空機は ALTA への加入により、同地域のエアライン各社の動向を理解しニーズにより的確に対応できる。

ALTA のアレックス・デ・グンテン事務局長は、「ALTA への三菱航空機の参加を歓迎する。リージョナルジェット機市場の新たな参入企業が、業界の歓迎を受け、市場に貢献する協業をもたらす可能性に大いに期待している」と述べた。

当社社長の江川豪雄は、「今般 ALTA の新規加入者となることを大変光栄に思う。既に加入している RAA（Regional Airline Association）と ERA（European Regions Airline Association）などに続き、中南米とカリブ地域での販売活動促進や地域に特化した問題の掌握、情報交換の場として活用していくつもりだ。リージョナルジェット機市場に新しい価値を築く MRJ の開発を推進している当社にとって、ALTA への加入はこの地域の各航空会社のニーズをより深く理解するために大いに役に立つと確信している」と述べた。

三菱航空機株式会社について

三菱航空機株式会社（通称：MJET）は、三菱リージョナルジェット（MRJ）の設計、型式証明取得、資材調達、販売、カスタマー・サポートなどを担当する事業会社として 2008 年 4 月 1 日に事業を開始した。現在の資本金は 1,000 億円で、三菱重工、トヨタ自動車、三菱商事、住友商事、三井物産他数社が出資している。

MRJ について

MRJ は世界最高レベルの運航経済性と客室快適性を兼ね備えた 70 ～ 90 席クラスの次世代リージョナルジェット機。『最先端の幹線機技術を適用し、次世代リージョナルジェット機のスタンダードを創造する。環境、乗客、エアラインへ従来にない新しい価値を提供する。』というビジョンの下、三菱重工がこれまで防衛・民間航空機分野で数多くの開発・製造を行うことで培ってきた世界最先端の航空機開発・製造技術力をベースに三菱航空機株式会社が開発を行なっている。世界最先端の空力設計技術、騒音解析技術などの適用と、最新鋭エンジンの採用により、大幅な燃費低減を実現するとともに、騒音、排出ガスも大幅に削減する。これら圧倒的な運航経済性と環境適合性により、エアライン

の競争力と収益力の向上に大きく貢献することを目指す。また、1列4席の配置、大型のオーバーヘッド・ビンの装備、新型スリムシートなどの採用により、これまでのリージョナル機にはない快適な客室空間を提供する。

ALTAについて

ALTA (Latin American and Caribbean Air Transport Association) は中南米とカリブ地域の非営利航空業界団体で、同地域の 90 パーセント以上の民間航空交通量はこの組織に加入する航空会社が供給している。ALTA は加入各社と共に、同地域の旅客と航空業界のためにより安全かつ効率の優れた航空輸送を提供している。1980 年に設立された ALTA は今年 30 周年を迎える。ウェブサイト www.alta.aero

以上